

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ゆめクラブ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの視点に近づく努力を欠かさない上での、知識や経験に裏付けされた、その子にその時必要かつ柔軟な支援の提供	・毎日のミーティングでの具体的なアプローチの確認など、場面に応じた想定の共有 ・発達支援に特化した内部研修会の充実、またそれを事業所内で、実際の子どもたちに当てはめて考え、般化して積極的に周知する機会を設定している	・チームとしての力量アップのため、各スタッフの具体的な活動中での困りごとや悩みを深掘りし、ケーススタディができるような研修会の設定 ・活動終了後の振り返り会の開催
2	個々の障がい特性や生活経験に応じた細かな読み取りによる、個々に応じた細やかな個別支援計画の設定	・個別支援計画を目標と状況表に分け、状況表の方では家庭からのこれまでの生育歴や課題等の情報を踏まえつつ、子どもたちの食事や排泄・コミュニケーション等々の項目ごとの状況や必要な支援をまとめている。そこから、『今』その子に必要なであろうエンパワメント支援を抽出している。	・本人視点に立つことを前提にしているとはいえ、事業所の理念としても発達保障を掲げているだけに、本人の願いをダイレクトに叶える目標とはなっていない場合もある。発達保障と本人の願いの融合を念頭に置いた目標を必ず一つでも策定するようにしたい
3	家族支援	・前身が親の会であったことも派生し、常に保護者の方とスクラムを組ませていただく姿勢を前提としていることから、「子どもたちにとってどうか」、という考えを前提に保護者の方に「伝わらないと意味がない」「(家庭が)実践できないと意味がない」という観点に立ち、その実現に向けての連携を常に取っていただいている。	・保護者の方とのやり取りを多く求めがちであるが、就労されているなどの諸事情により連絡の取りづらい方にも同じように連携を取らせていただけるようなツールの工夫などが今後必要である

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・マニュアル等の整備	・事業所内の掲示の更新や書類の整備など、子どもの状況等に依りて優先度を下げってしまう傾向がある	・今後、担当を決めるなどして行い、定期的な周知を含めた体系づくりで対応したい。
2	・発達支援におけるチーム力	・職員の大抵の方が非常勤スタッフであり、様々な経験をお持ちの方たちが多く関わっている。このことは、様々な視点での柔軟な対応を可能とする一方で、連携の為の時間は限られており、日々変化するお子さんたちの状況の情報共有だけで終始してしまうことが多い。	・今後、活動終了後に、振り返りの時間を持つことで、各自やチームとしての即時の振り返りをし、それぞれの良い点や改善点の確認の機会につなげる。また、常勤職員の研修の機会と比べ、非常勤の方への機会やアナウンスが少ないとの反省に立ち、今後、そうした機会を積極的に持ち、共有するための機会を内部研修会として持つようにする。
3	・本人視点の欠如	・「〇〇ができるようになる」ということよりも、「どんな自分でも良いと思える」と感じられるようになることを優先して考えている。このことは、時に目標課題設定を分かりにくくしてしまうことに繋がる	・支援者が周りであれこれ難しく考えるのと並行し、シンプルな「本人の願い」に立ち返り、そこから事を発していくことこそ必要であるとの反省に立ち、個別支援計画に「本人の願い」単独の欄を設け、そこから派生した目標を設定するようにする。